



by HARMAN[®]

SYNTHESIS[®]

JBL[®] SCL-3 JBL[®] SCL-4

壁埋め込み式スピーカー

設置および取扱説明書

目次

初めに	2
同梱品	2
スピーカーの配置	3
左右スピーカー	3
センターチャンネルスピーカー	3
周辺サラウンドスピーカー	4
5.1-チャンネルシステム	5
6.1-チャンネルシステム	5
7.1-チャンネルシステム	6
設置に関する一般注意事項	6
スピーカーを他のシステムに接続	6
背面エンクロージャ設置	7
前面バッフル組立品をバックボックスに設置	8
仕様	10

はじめに

JBL® SCL-3およびSCL-4壁埋め込み式スピーカーをご購入いただきありがとうございます。65年以上にわたってJBLの技術者たちは、世界各国の家庭、コンサートホール、レコーディングスタジオ、映画館に音響設備を提供してきました。JBLの製品は、一流の芸術家と音響技師に一番売れる製品になっています。SCL-3とSCL-4は、JBL統合ホームシアターシステムの最新製品です。ご購入のラウドスピーカーから最高のパフォーマンスを得るには、本書の指示をしっかりと読み下さい。

パッケージの内容物

JBL SCL-3およびSCL-4パッケージの内容物：

- 1-ラウドスピーカー
- 1-JBLロゴセット
- 2-センターバッフルネジ (SCL-3の場合、1つのネジは特別な長さを使用される余分/予備ネジです)
- 13-バッフルネジ (SCL-4)
- 8-バッフルネジ (SCL-3)
- 1-4つの保護板のセット (SCL-4のみ) SCL-3の場合、保護板は建設前のウォールブラケットに付属しています
- 1-グリル
- 1-ユーザーマニュアル
- 1-取り付けブラケットが付属されているバックボックス

出荷の損傷があると思われる場合は、即時に販売店にお知らせ下さい。将来の使用のために、箱と包装材を保管しておくことをお勧めします。

スピーカーの配置

ホームシアターの音響パフォーマンスを実現するためには、ラウドスピーカーを適切な位置に配置するのがとても重要です。正確で最適な配置について知るには、次のセクションをお読み下さい。

左右スピーカー

統合ホームシアターシステムを購入した場合、SCL-3とSCL4モデルはフロント左右のメインスピーカーであります。SCL-3とSCL-4モデルは、一定の音響範囲と最大の音響分散を実現するために設計されました。俳優の音が画面上の映像から直接聞こえてくるように感じさせるには、これらのモデルを画面とほぼ同じ高さでスピーカーの中心に配置しなければなりません。理想としては、スピーカー間の距離と聞き手から各スピーカーまで距離が同じであるように、聴取位置から見る時に左右スピーカーが約60度ほど離れているように配置しなければなりません(図1)。スピーカーの優れた拡散性はシステムの取り付けを容易にします。必要に応じて向きを変えられ、いずれかの方向に取り付けることができるが、ホーンがウーファーの上方に来る様に取り付けることをお勧めします。取り付け方向は、取り付け位置の高さと部屋の境界によって大いに異なります。

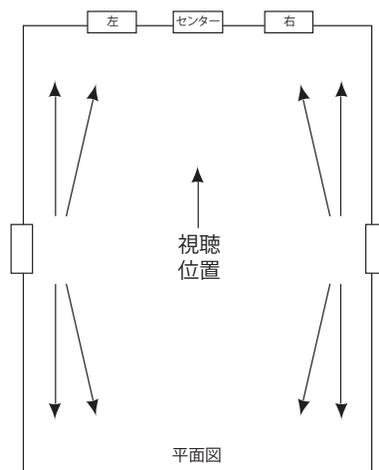


図1

センターチャンネルスピーカー

SCL-4: センター位置用にSCL-4を購入した場合、必ずホーンがウーファーの上か下に来る様に垂直に取り付けて音響分散特性を生かして下さい。水平に取り付けると、最も最適化された水平分散パターンが提供されません。スピーカーをサウンドスクリーンとともに使用する場合、スピーカーの“中心”軸ができるだけ左右チャンネルスピーカーの中心軸に近く位置するように、スクリーンの後ろに取り付けて下さい(図2をご覧ください)。

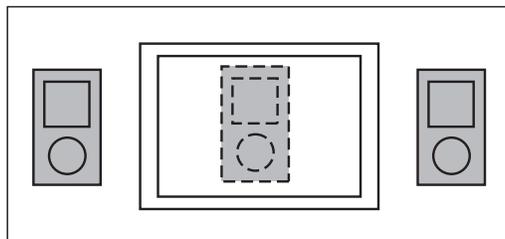


図2

穴のない映写幕、プラズマディスプレイやその他の固定ビデオ装置が使用される場合は、より小型であるSCL-3モデルを選択して下さい。あるいはビデオディスプレイの真下やできるだけ近くにSCL-4を取り付けて下さい。いずれにしても、左右チャンネルスピーカーを少し低い位置に取り付けて垂直位置差を最小化しなければなりません。スクリーンやビデオディスプレイの上に取り付けても良いです。

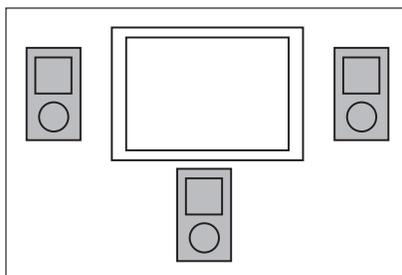


図3

SCL-3: センターチャンネルスピーカーに使用するために小型のSCL-3を購入した場合、必ず(ウーファーの上方や下方にある隅に)垂直に取り付けて音響分散特性を生かして下さい。水平に取り付けると(ウーファーの左方や右方にある隅)、最も最適化された水平分散パターンが提供されません。SCL-4センターチャンネルの設置と同様に、スピーカーの“中心”軸ができるだけ左右チャンネルスピーカーの中心軸に近く位置するようにSCL-3を取り付けて下さい(図2をご覧ください)。

穴のない映写幕、プラズマディスプレイやその他の固定ビデオ装置が使用される場合は、先に述べたようにビデオディスプレイの真下やできるだけ近くにに取り付けて下さい(図3をご覧ください)。先と同様に、ビデオディスプレイの真上に取り付けても良いです。

注意: センター、左、右のスピーカーを同じ高さで取り付けることが極めて重要であります。高周波数圧縮ドライバーを含んでいるセンターチャンネルスピーカーのHDIホーンは、左右スピーカーのHDIホーンとの垂直位置差が2フィートを過ぎないようにして下さい。これは、“サウンドパン”の“定位完全性”を維持して、音が左から中央に、中央から右に移動するように思われるようにします。番組材料も上下に移動する場合、流し撮り効果をなくすので避けて下さい。

周辺サラウンドスピーカー

たとえ長年にわたって商業映画館でたくさんのサラウンドスピーカーを使用することが一般的であったが、伝統的なホームシアターの構成は5.1チャンネルです。最近の音響設備に表示されているサラウンド形式は、より複雑な6.1と7.1チャンネルシステムです。これらのシステムには、高さチャンネルのスピーカーが含まれています。追加のスピーカーを使用すると、多い長所を有することができます。追加のチャンネルは、より正確なサラウンド上演のための指向性をより多い目的に利用できるようにします。また、より少ないエネルギー消費でより高い全音域音圧を実現することができます。サラウンドスピーカーの配置は相変わらずとても重要であります。

5.1-チャンネルシステム

サラウンドスピーカーに使用されるSCL-3とSCL-4システムは、観覧席の1列より画面に近くないように配置されている場合に、最適の効果を発揮します。二列がある場合は、一列と二列の間に配置しなければなりません。サラウンドスピーカーは、座席にある人の耳より少なくとも2フィート高い位置に配置しなければなりません(図6)。望ましい取り付け方法は、側壁に直接取り付けることです。これは各スピーカーの音響が部屋の前方向と後方に放射され、側面に反射するようにします。一部の 경우에는、壁より天井に取り付けるのがサラウンド効果をもっと高めます。穴、繊維、家具、その他の音響吸収因子によって音響が壁に反射されない場合は、周辺サラウンドスピーカーを傾けてホーンが聴取区域に向かってるようにしなければなりません。

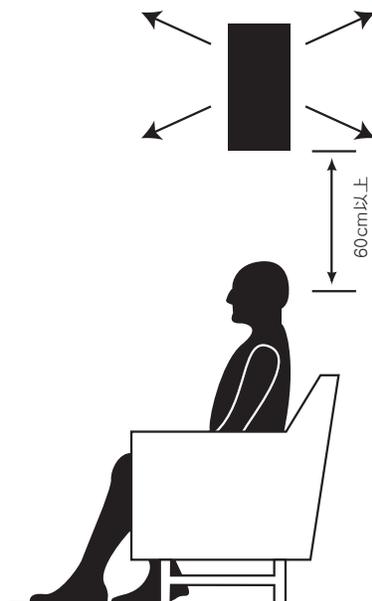


図6

6.1-チャンネルシステム

6.1-チャンネルシステムは、2つのサラウンドスピーカーの中間に背面センタースピーカーを配置した5.1-チャンネルシステムと考えることができます。この背面センタースピーカーは側面サラウンドスピーカーと同じ高さで取り付けなければなりません(図7)。

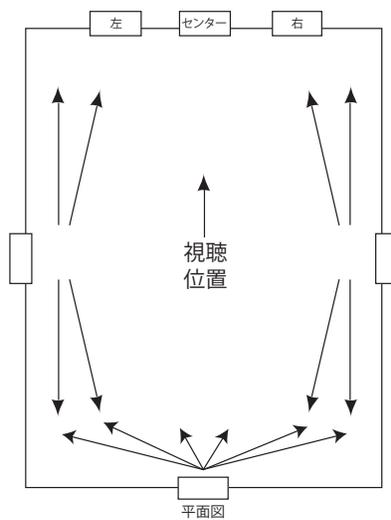


図7

7.1-チャンネルシステム

7.1-チャンネルシステムは、5.1-チャンネルシステムに2つの背面スピーカーが追加されたものです。追加された2つのスピーカーは、背面壁にまたは天井の後壁の近くに取り付けられます(図8)。

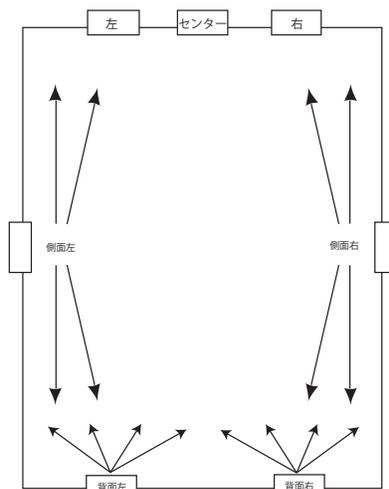


図8

設置に関する一般注意事項

1. 聴取位置で最高の加音効果と最も早い周波数反応を実現には、ホーンの中心を聞き手の耳より少し高い位置に、または耳の軸上に取り付けて下さい。
2. 背面エンクロージャとバッフルネットワークの全ての配線接続を確認します。
3. 全ての配線オプション(バイワイアリング、バイアンプ、ダイレクト/アクティブ)を確認します。

スピーカーを他のシステムに接続

統合SCL-3およびSCL-4ラウドスピーカーをパワーアンプやレシーバーに接続させるには、二線絶縁スピーカーワイヤーを利用して下さい。最小サイズとして#14 AWGワイヤーをお勧めします。用途に従う正確な規格については、JBL販売店にお問い合わせ下さい。

SCL-3とSCL-4は、最大#10 AWGのより線に対応できるバネ式留め金を利用します。

接続ワイヤーの準備

1. まず増幅器と各グループ(前面、サラウンド、背面サラウンド、受動的なサブウーファー)の最も遠くあるスピーカーの距離を確定します。
2. 各グループの全てのスピーカーの接続ワイヤーをこの長さに作ります。これは、適正な信号バランスを維持するのに役立ちます。バイアンプやバイワイアリングに利用する予備ワイヤーもこの長さに作って下さい。
3. 各導線の両端から3/8"の絶縁材を剥ぎ取ります。
4. 各組のより線によって、らせん形の束を作ります。壁を沿ってワイヤーを取り付け位置まで引きます。
5. スピーカーと電子機器の端子には対応する(+)端子と(-)端子があります。JBLをはじめとして、ほとんどのスピーカーおよび電子機器製造業者は、赤色で(+)端子を、黒色で(-)端子を表示しています。ワイヤーを連結する前に確認して下さい。

全てのスピーカーの端子を完全に同じように連結するのが重要です。スピーカーの(+)端子は増幅器の(+)端子に、スピーカーの(-)端子は増幅器の(-)端子に連結します。"位相の不一致"(+を-に、-を+に)は、細い声、弱いバス、質の悪いイメージングの原因となります。

マルチチャンネルサラウンドシステムの使用において、番組材料の適正な背景音と周波数反応を維持するためには、システムの全てのスピーカーを正確な両極に連結することが重要です。

各組のスピーカーワイヤーの2つの導線間の視覚的差異を確認して下さい。一番区別される特徴は、異なる色のワイヤー(赤銅色と銀色)であります。1つの導線の中には1つのより線があります。外側絶縁材の1つの部分上には薄いリブが浮き彫りにされており、マークが印刷されています。2つのより線の中でいずれのより線がスピーカーと増幅器の(+)と(-)に連結されるかは関係ありません。重要なことは、全てのスピーカーの端子が増幅器の該当な端子と同じ色のワイヤーで連結されるようにすることです。バックボックスに取り付ける時、バネ式留め金の上で押し、裸線を中心から離れている穴に挿入します。

背面エンクロージャ設置

注意:

L-ブラケットに表示されているMAX位置を越えないで下さい(図9)。

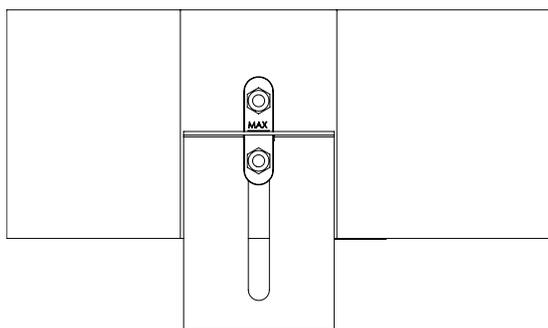


図9

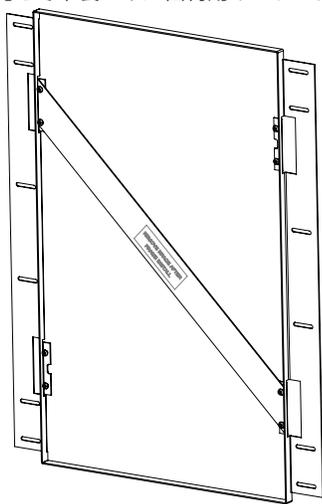
天井埋め込み式設置の場合は、供給された保護板は**必ず**設置して下さい。

安全の為に、新しいSCL-4システムを既存の天井埋め込み式設置に改良する時には、必ずSCL-4システムと同梱されている保護板を利用して下さい。

予備アッセイのブラケットを設置したり、壁に切り込む前に、必ずバックボックスの正確な方向を決定して下さい! (次のページに重要な注意事項があります)

設置手順:

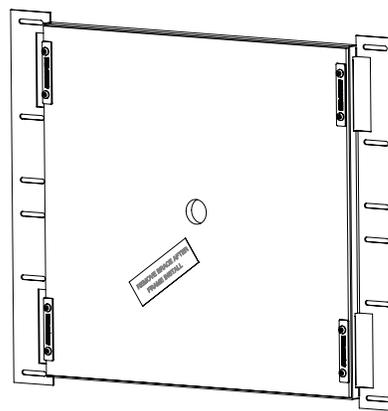
1. 付属説明書に従ってウォールブラケットを設置します(予備アッセイのブラケットは別途に販売)。
2. 必要に応じて木製パネル出荷用インサートと金属クロスブレースを取り外します。(図10と図11)



SCL-4予備アッセイブラケット

図10

または



SCL-3予備アッセイブラケット

図11

背面エンクロージャを挿入する前に知っておくべき注意事項: SCL-4システムの場合、バックボックスの端子カップエンドは“ホーンエンド”であり、SCLスピーカーのウーファーエンドはバックボックスの端子カップエンドから離れて取り付けられません。そのため、背面エンクロージャ端子の位置によって、ホーンの方角が変わります。例えば、端子が最上部に位置する場合、ホーンはウーファーの最上部に設置されます。SCL-3システムは、背面エンクロージャ端子の方角がホーン的位置に影響しないように設計されています。SCL-3/バッフル(ホーン)は、背面エンクロージャの設置方向にかかわらず、4つの位置の中でいずれの位置に設置することができます。

- 増幅器のワイヤーをバックボックスの端子カップ上の適切な端子に連結します。
- 4つのタブやウォールブラケットに接触している4つのL-ブラケットを利用して、背面エンクロージャの位置を合わせます。SCL-4システムの場合、端子の方角によってホーンの方角が変わることを覚えておいて下さい。上記の“2”をご覧ください。
- 提供されている8つの小ネジでL-ブラケットをタブに固定します。(図12をご覧ください)

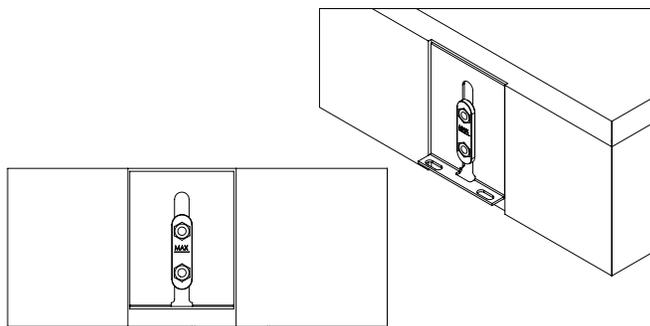


図12

警告: 全ての天井埋め込み式設置に対して、提供された保護板を必ず利用して下さい!

- エンクロージャの内側にある8つの大きいネジ(1/4-20 x 3/4")を少し緩めて、壁を出入りすることができるようにします。
- エンクロージャの前面の端面を壁面と同一平面上に置きます。ネジを締めます。とても厚く処理した壁面に設置する場合は、エンクロージャのL-ブラケットを裏返して、L-ブラケットが壁から突き出るようにします。これはシステムを追加の前方配置を提供します(図13をご覧ください)。

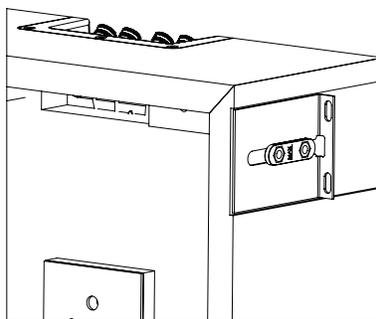


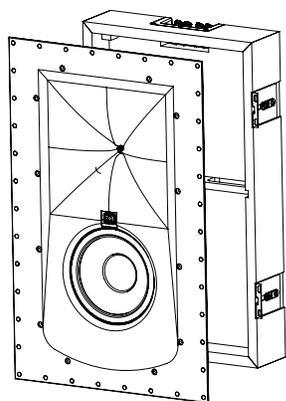
図13

前面バッフル組立品の設置

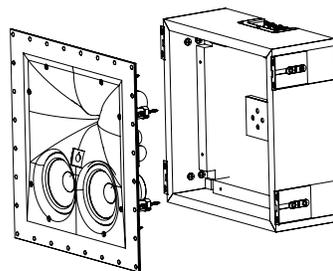
注意:

バッフル取り付けネジを締め過ぎないで下さい! 動力工具を利用してバッフルネジを固定する場合は、ガスケットが取り付け面に触れている壁へバッフルを引くことができるように、最も低いクラッチ設定のみを利用して下さい。ガスケットと振動絶縁を適切に密閉するには、ネジを約8~16in-lbsまで手で締めて下さい。(これは約1/2に相当します。バッフルガスケットがエンクロージャと壁面に触れる時からネジの頭が回転します。)

- クロスオーバープリント回路基板上のヘッダーにワイヤーの端にあるインラインコネクタを取り付けることによって、背面エンクロージャの端子ワイヤーからネットワークまで必要な電気的接続を行います。バイワイアリングやバイアンプの場合は、スピーカーを設置する前に、バイワイアリングおよびバイアンプに関する指示をお読み下さい。
- ホーンを端子カップの近くに設置できるように、SCL-4を正しい方向に配置して下さい(背面エンクロージャの設置の下の注意事項“b”をご覧ください)。SCL-3はバックボックスに対して任の方角に設置できます。このような設置の柔軟性は、背面エンクロージャやウォールブラケットの方角を変更することなく、ホーンの軸を適当な位置に配置したり、部屋の音響を最適化できるようにします。
- バッフル組立品をエンクロージャに設置します。バッフル上のガスケットは、エンクロージャの端面や壁に設置しなければなりません。**警告:** 組み立て中にワイヤーを締め付けることを防止するために、バッフルを挿入する時に端子の接続を注意深く指導して下さい(図13と図14をご覧ください)。

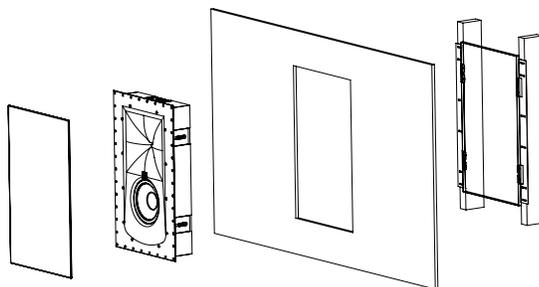


SCL-4埋め込み型ラウドスピーカー
図13

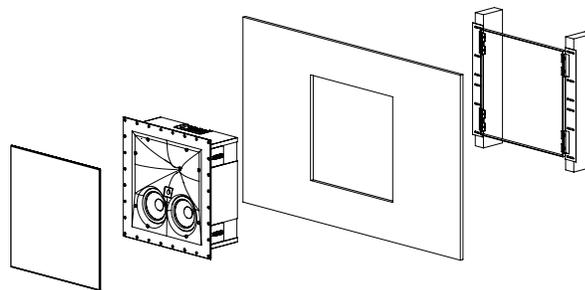


または
SCL-3埋め込み型ラウドスピーカー
図14

4. まず中心の取り付けネジを締めます。このネジは、バッフルの組立品をバックボックスに固定する時に利用することができます。
5. 周囲のバッフル取り付けネジを締めます (ネジの締めに関する注意をご覧ください!)
6. ゴムロゴベースを中心取り付けネジ上の所定の場所に挿入します。
7. JBLロゴの接着用テープを取り外して、適正な方向でゴムベースに挿入します。
8. ゼロベゼルメタルグリルをバッフル上に挿入します。バッフル上の磁石がグリルを固定します。グリルが固定されているかを確認します。グリルを作業中に落とさないで下さい。(図15と図16をご覧ください)



SCL-4埋め込み型ラウドスピーカー
図15



SCL-3埋め込み型ラウドスピーカー
図16

バイワイアリングとバイアンプ

バイワイアリングやバイアンプは、設置が簡単です。

1. バイワイアリングやバイアンプを選択し、2組のバイワイヤー用の線をそれぞれのスピーカー用に切ります。
2. ワイヤーの両端を切り、ワイヤーを取り付け位置まで引きます。
3. 1組のワイヤーの+と-端子は“HF”入力端子に、他の組のワイヤーは“LF”入力端子に連結します。
4. バイワイアリングやバイアンプを利用してスピーカーを設置する前に、2つの青いジャンパを取り除きます (バイアンプジャンパホットとバイアンプジャンパグラウンド)。コネクタに圧着されているワイヤーの真上にあるジャンパのコネクタを締め付けて、これらのジャンパを取り除くことができます。このためには、コネクタのロックを解除する必要があります。コネクタのロックが解除されない場合は、樹脂のカバーをワイヤーの上へ後退させ、ロックレバーをワイヤーの上へ引っ張りながら、ボールペンや小さい道具を使って押し下げます。
5. 上記の指示に従って、他のスピーカーの設置を続けます。

仕様

仕様	SCL-3	SCL-4
スピーカーのタイプ:	双方向埋め込み型ラウドスピーカー	双方向埋め込み型ラウドスピーカー
低周波トランスデューサー:	二重5.25" (130mm) キャストフレーム、高性能アルミニウムマトリックスコーンウーファー	7" (180mm) キャストフレーム、高性能アルミニウムマトリックスコーンウーファー
中/高周波変換機:	1" (25mm) 2409H環状リングダイヤフラムポリマー圧縮ドライバー	1" (25mm) 2409H環状リングダイヤフラムポリマー圧縮ドライバー
最大推奨増幅出力:	300ワットRMS	300ワットRMS
周波数応答 (軸上で-6dB):	65Hz ~ 33kHz	45Hz ~ 33kHz
音響範囲 (-6dB @ 20KHz): 音響範囲 (-6dB @ 10KHz):	90 x 60度 (水平 x 垂直) 110 x 90度 (水平 x 垂直)	100 x 100度 (水平 x 垂直) 120 x 120度 (水平 x 垂直)
感度 (2.83V@1m):	91dB	91dB
公称インピーダンス:	6Ω	6Ω
クロスオーバー周波数:	1.3kHz	1.3kHz
筐体タイプ:	密封されたバックボックス	密封されたバックボックス
入力:	金めっき留め金のデュアルセット	金めっき留め金のデュアルセット
寸法 (グリルとバックボックスを包含) (高さx幅x奥行)	16.5" x 16.5" x 6" (418mm X 418mm X 153mm)	25.4" x 16.47" x 4" (644mm X 418mm X 102mm)
重量:	25.4lb (11.5kg)	28.2lb (12.8kg)
仕上げ:	塗装可能ホワイトグリルにつや消し黒仕上げ	塗装可能ホワイトグリルにつや消し黒仕上げ

ユーザーマニュアルに関する追加の言語サービスについては、JBLSYNTHESIS.COMをご覧ください。

Торговая марка:	JBL
Назначение товара:	Пассивная акустическая система
Изготовитель:	Харман Интернешнл Индастриз Инкорпорейтед, США, 06901 Коннектикут, г.Стэмфорд, Атлантик Стрит 400, офис 1500
Страна происхождения:	Мексика
Импортер в Россию:	ООО Внешторг-Юг, Россия, 171640, Тверская область, г.Кашин, ул. Карла Маркса, д.57А
Гарантийный период:	1 год
Информация о сервисных центрах:	http://absolut-audio.ru/Servis/ тел. +7 (495) 995-10-80
Срок службы:	5 лет
Срок хранения:	не ограничен
Условия хранения:	Стандартные при нормальных значениях климатических факторов внешней среды
Номер документа соответствия:	Товар не подлежит обязательной сертификации
Дата производства:	Дата изготовления устройства определяется по двум буквенным обозначениям из второй группы символов серийного номера изделия, следующих после разделительного знака «-». Кодировка соответствует порядку букв латинского алфавита, начиная с января 2010 года: 000000-MY0000000, где «М» - месяц производства (А - январь, В - февраль, С - март и т.д.) и «Y» - год производства (А - 2010, В - 2011, С - 2012 и т.д.).



HARMAN Интернационал, 株式会社
8500 Balboa Boulevard, Northridge, CA 91329 USA

www.jblsynthesis.com

© 2016 HARMAN International Industries, Incorporated / (ハーман・インターナショナル・インダストリーズ株式会社)。無断複写・転載を禁じます。

JBL、差動ドライバーとHDIはHARMAN国際産業、株式会社の登録商標であり、米国および/またはその他の国に登録されています。

特徴、仕様および外観は、予告なしに変更されることがあります。

CE EAC 品番950-0525-001 Rev. A